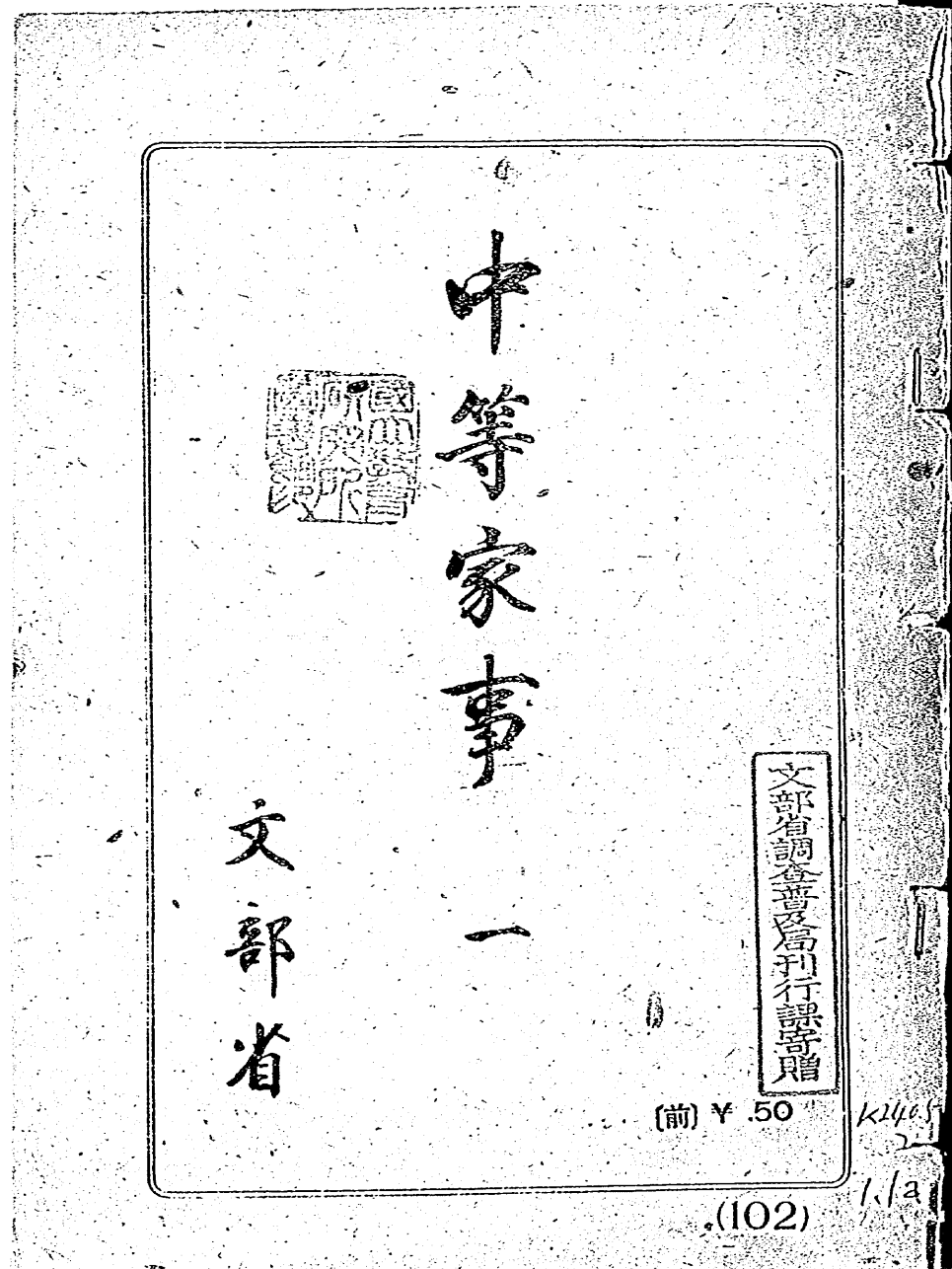


K240.5

2a



目 録

第一 家事と女子	一
第二 敬老	一
第三 弟妹の世話	三
一 乳児の生活とその相手	三
二 守りの注意	五
三 よいしつけ	七
四 幼児の遊ばせ方	八
第四 家の清潔と整理	十一
一 掃除用具と掃除の仕方	十一
二 物品の整理	十三
三 家具や什器などの手入れ	十四

第一 家事と女子

私どもの母は、朝早くから夜おそくまで働きます。どんな仕事をしてゐますか。家の内のこと、外のことに分けて考へてみませう。

母のこの尊い働きに對して、私どもはどんな手傳ひをしてゐるでせうか。私どもは今までも家事の手傳ひはして來ました。しかし、それは殆ど唯ひいつけられるまゝにしたに過ぎませんでした。これからは手傳ひの意義を考へて、いひつけられた仕事はもちろん、進んで手傳ひをするやうにしませう。

かうして手傳ひをみるゝ、はたで見てゐては何でもないやうなことが、實際にはなかなか容易でないのに驚くでせう。知らないことはよくたづね、むづかしいことは十分考へてしませう。そこに勤勞の精神も養はれ、又、仕事に對する興味も湧いて來ます。

家事の修業は學校の教習ばかりでするのではなく、

第一 家事と女子

昭和 21 年 3 月 13 日 印刷 同日 録刻 印刷
昭和 21 年 3 月 17 日 發行 同日 録刻 發行
[昭和 21 年 3 月 17 日 文部省検査済]

著 作 權 所 有 著 者 發 行 者 文 部 省

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE Mar. 13, 1946)

録刻發行者

印刷者

東京都神田區岩本町三番地
中等學校教科書株式會社
代表者 龜 井 寅 雄
東京都牛込區市谷町一丁目十二番地
大日本印刷株式會社
代表者 佐久間 長吉 郎

第二 敬老

祖孫一體のわが國の家には、自然に敬老の美風が昔から傳はつてゐます。

家の老人は、その生涯の大部分を家のために盡くして働かれ、私どもの今日あるのは、そのお蔭であります。随つて、その御苦勞に對しては深く感謝すると共に、更に長壽を保つて、家のため國のために働かれるやうに祈りませう。殊に今日では、老人とても、からだに應じて國のために働くことを、尊ぶ眼でゐられ

るのですから、その氣持を汲んで、無理のない程度に働いていただくことは、却つて孝養の道であります。

しかし、元氣のやうでも、老人には年齢相當の衰へがあるものですから、家族の者が十分に氣をつけてあげなければなりません。老人へは、その年齢・男女・性質・健康・習慣・趣味などによつて、仕へ方もそれぞれに違ひますから、これらの點をよくわきまへて、人と時と場合とによさはしいやうに、女らしい細かい心づかひをしなければなりません。

老人は世の中のいろ／＼な辛勞を越えて長く生きて來られた方だけに、多くの經驗と深い思慮とがあります。随つて、老人は家の寶とも考へなければなりません。私どもは何事につけてもその教へを請ひ、指圖を仰ぎ、親しみと敬ひの心を以つて仕へませう。時勢の進運に伴ふ家事の改善などに就いても、家の古いしきたりの精神を新しく生かすやうに努めて、よく老人の理會を求め、その指導を請ふやうにしなければなりません。

老人の食事に就いては、特に栄養と消化とに注意し、

その好みにまでもよく氣をつけてあげさせう。又、老人の身なりは、家族の心づかひをそのまゝ表すばかりでなく、老いの身には、暑さ寒さは殊にさはりやすいものですから、雨につけ風に付けて、十分氣を配ることを忘れてはなりません。老人の部屋は、夏は涼しく冬は温かいやうに、足場などには一層の注意が肝要です。

老人は神詣でやお寺参りを喜び、又よく親戚や縁者をたづねたりするものですから、そのやうな外出の際には何くれとなく氣をつけて、萬一のことのないやうにしなければなりません。老人のけがや病氣はとかく長引き、餘病なども出がちなものですから、常にゆだんなく世話をすることが大切です。非常變災の場合には、先づ第一に、老人の身の上の安全をはかるべきは、いふまでもありません。

年寄ると心さみしいもので、外出ものうく、とかく引きこもりがちになります。が、さうなると、殊更にそれが感ぜられることでは。こんな場合、若い嫁や孫娘などのやさしい心盡くしてこそは、何にもまして老

すか。

(二)老人の部屋・被服・食物などに就いて、これまどどのやうに氣を配つて來ましたか。

第三 弟妹の世話

母の心は、家の用事の多い中にも、片時も子供の upper 上を離れることがありません。

この母をいくらかでも働かやすくするため、又、弟妹を少しでもよい國民に育てあげるために、私どもは責任を以つて、細かい心づかひで世話をしなければなりません。弟妹だけでなく、近所の子供にもこの心掛で接させう。

一 乳兒の生活とその相手

弟妹の世話は、第一に相手をする事です。上手に相手をするには、子供の生活をよく知らなければなりません。先づ、乳兒の生活を觀察させう。

(一)老人をいたはり、喜ばせてあげたことがあります。

乳児は、目をさまして人ゐれば、いつも何か運動してゐます。小さな手や足を動かしたり、頭を動かしたりして、少しの間もじつとしてゐません。四箇月頃になると、頭を上げて起き返らうとします。この頃から、だん／＼全身の運動が始り、六箇月頃には、起き返つて腹ばひになつたり、やがてお尻をついて坐ることもできるやうになります。八、九箇月頃になると、はひ出します。十箇月頃には、つかまり立ちをするやうになり、間もなく手を放して獨りで立ちますが、次第により／＼と歩き出します。これが生後凡そ一年三箇月ぐらゐであります。

これまでの運動力の發達の盛んなことは、まことに驚くほどです。さうして、それと同時にい／＼な感覺も非常に發達して來ます。おもちゃは、この運動力と感覺とをよく働かせて、それらの發達を助けるために與へるのであります。

(一) 乳兒の運動力や感覺の發達を調べ、どんなおもちゃを與へたらよいかを考へてこらんなさい。

べてこらんなさい。

(二) 乳兒はだん／＼どんなことを言ふやうになりましか。それを書き留めておきなさい。

二 守りの注意

母のいそがしい場合や留守の時などには、母に代つて守りをするのも私どもの務めです。

幼い子供はよくけがをします。それにはい／＼な原因もありませうが、守りの不注意や、下手な扱ひ方などから起ることが多いやうです。うつかりほかのことに氣を取られてゐると、交通の激しい道路などではいふまでもなく、家の内でもさへ、思ひがけないけがをさせることがあります。又、子供の健康に就いても、その時に注意しなければならぬことは、よく母にたづねて、そのいひつけに従ひ、子供に與へる食物やおもちゃには殊に注意させよう。

幼い子供のけがが、どんな所で、どんなことから起りやすいか、家の内と外とで、それ／＼よく研究してこらんなさい。

(二) はひ／＼つかまり立ち・よろ／＼歩きなどが始ると、い／＼危険なことも起ります。どんな注意をしたらよいでせうか。

乳兒はよく泣きます。それにはさまざまの場合があります。物を言ふ代りに泣くことが多いのです。母には意味がわかるやうですが、どういふ時に泣くのか、私どもも注意してゐて、泣く原因のわからない時は、若物やからだをよく調べてみませう。

三箇月頃から、意味のない音聲を發するやうになります。六箇月頃からは、それが一層盛んになり、十一箇月頃からは、かたことを言ふやうになります。これらの言葉は、まだ、たど／＼しくて、何を言ひ表さうとしてゐるのか、はつきりわからないものです。しかし、子供がかたことを言ふのを笑つたり、話しかけられたのに受け答へをしないと、智能の發達をさまたげたり、性質を悪くしたりしますから、どこまでも親切に聞いてやらなければなりません。

(二) 乳兒が泣くのはどんな場合か、實際に就いて調

子供の扱ひ方の中には、抱き方でも背負ひ方でも寝かせ方でも、又、着物の着せ方や食物のたべさせ方でも、よい仕方とわるい仕方とがあります。

抱き方 頭がまだぐら／＼してゐる四箇月頃までの



乳兒を抱くには、一方の手を背中から頭の後に當てて頭を支へ、他方の手は前から腰の後へ廻して、乳兒のからだをやゝ斜めになるやうに抱きかゝへます。

頭がしつかりして來たら、一方の手を子供のわきの下から背中へ廻して、ぐる／＼と抱き込み、他方の手はお尻の下へ廻

して、腕で支へるやうにします。この時、子供は、真直に腰掛けの姿勢で抱かれ、顔は自分と向き合ふか、斜めに向くこととなります。

背負ひ方 背負ふと、どうしても子供のからだの各部を固く締めることになり、血の循環や胸部・腹部にいろいろな害があります。それ故、あまり長い間背負つてゐないで、時にはあつして、暫く子供のからだをらくにさせるやうにします。

(一)背負つた幼い子供が眠つて、首を折れさうに後に倒すことがあります。これを防ぐには、どうすればよいでせうか。

(二)夏の暑い時、子供を背負ふには、どんな注意がいりますか。又、冬、手足の冷える時には、どうすればよいでせうか。

寝かせ方 睡眠は乳幼児には特に大切です。生まれ乍の間の間、寒い時には、やけどをさせないやうに注意して湯たんぽを入れます。眠つたら、なるべく静かにして、熟睡をさせたいやうにする方がよいので

すが、しかし普通の音ぐらゐには平気で寝るやうにしたいものです。ふとんは必ず足先まで掛け、夏でも腹からは薄いものを掛けて、冷えないやうに氣をつける必要があります。

幼い子供は寝ながらあばれて、ふとんをはねのけてしまふことがあります。ふとんの掛け方をどうしたらよいでせうか。

着せ方 肌に近いものから正しいねいに正しく着せ、帯や紐はあまりきつく締めないやうにしなければなりません。着物を着せながらも、肌着がよごれてはゐないか、かざさきやほころびはないかよく注意して、よごれやほころびは私どもが洗濯したり、繕つたりしませう。又、厚着ではないか、薄着過ぎはないか、着せ方がわるくてからだかと思ふやうに動かせないやうなことはないか、といふことなどにも心を配り、氣がついたことは、母にたづねるやうにさせよう。

乳児が着てゐる着物の種類や枚数を時々調べてもらなさい。

たべさせ方 乳だけで育つて来た乳児も、七、八箇月頃からほかの食物もたべるやうになります。しかしその頃は、まだ胃腸のはたらきが十分でありませんから、きまつたもののほかは與へないやうにし、又、必ずきまつた時間にたべさせるやうにしなければなりません。

たべさせるには、先づきげんをよくさせてから與へるやうにします。寝てゐるのを無理に起して、直ぐにたべさせるやうなことはしないやうに氣をつけませう。又、着物をよごさないやうに、手拭などを胸に掛けてやりませう。この時、手を出して口に運びがらですから、手はよく拭いておき、さじを使ってゆつくりたべさせませう。途中で遊んだり、いたづらをしたりするものですから、たべさせる方でも、あせらないことが大切です。

生後一年ぐらゐの子供には、どんなものをたべさせますか、實際に就いて調べてもらなさい。

だん／＼にさじや箸を自分で持つてたべたがるやう

になります。その頃には、よく御飯や汁をこぼします。が、子供はそれでも一生懸命なのです。できるだけ獨りで練習させるやうに仕向けたいのです。まはりのよごれるのは、初めからそのつもりで支度してよくやうにさせよう。

三 よいしつけ

守りをしながらも、よい習慣をつけるやうに心掛けませう。しつけは見まねから始まるものですから、幼い時こそ、却つて自然によい習慣がつけられます。

習慣は、同じことを何度もくり返してゐるうちに、いつとはなしに出来て行くもので、よいしつけがつかどうかは、世話をする者の仕向け方一つであります。母が折角苦心してつけたしつけも、守りをする者が忘れたら、こたつたりすると、直ぐにくづれてしまひます。子供は白紙のやうなもので、よい習慣にもわるいくせにも染まりやすいものですから、私どもは先づ、自分自身がしつかりして、常によい手本を示すやうに心掛けなければなりません。

次に、子供が獨りでできる普通の事がらを擧げておきますから、私どもも母の心になつて、無理でないことは順々に正しく、しつて行くやうにさせよう。

規則正しい食事のしつけは、乳を與へる時間を正確にすることから始め、離乳期頃からは、時間をきめて食事をさせなければなりません。さうして、獨りで食事をやるやうに仕向けます。一年六箇月になれば茶碗やさじを持つことができるやうになり、三年頃には、箸を持ち、三年六箇月になれば、こぼさないで食事ができます。それから、食事前後には挨拶して、正しい態度で食事をすることもしつて行きたいものです。

一規則正しい睡眠や、暗い所で獨りで寝る習慣も、乳兒の頃からしつけなければなりません。二年を越したら、寝る前に必ず寝間着に着かへさせ、排尿もさせます。又そのうちに、齒を磨いたり、挨拶したりする習慣もつけるやうにさせよう。

排便に就いての正しい習慣は、むつきがよければ直ぐに取りかへることから始め、次に、これを告げさせるやうにしつけます。それには、大便是二、三箇月

頃から、排尿は十箇月頃から、毎日規則正しく一定の時間に、きまつた人がきまつた場所で、聲をかけながらさせるやうにしてゐますと、一年六箇月には、自分から告げることができるようになるものです。二年六箇月頃からは、獨りでできるやうに仕向けて行きます。着物の習慣と、自分で着物を着ることも、しつけなければなりません。三年頃からはゆるやかな着物の袖に手を通したり、脱いだりすることができ、三年六箇月頃から四年頃には、ボタンを掛けたりはづしたりすることもできるようになります。下ばきを脱いだりしたりすることも、その頃にはでき、五年六箇月頃には紐も結べるやうになります。

食事の前に手を洗ふことは、三年頃になるとできます。又、獨りで齒を磨き、うがひをし、鼻をかみ、顔を洗ふといふやうなことも、四年頃にはできるやうになります。

四 幼兒の遊ばせ方

三年になり四年になると、活潑な遊びの生活が始り

ます。心のはたらきも發達し、體力も増して來たからであり、遊びによつて、更にそれが發達し、強くなるります。よく相手をして、できるだけ遊ばせるやうにするために、先づ弟妹や近所の子供の遊びを観察させよう。

遊びの態度 子供は、その遊びの中であつてゐることは何であつても、一生懸命であり、真剣であります。鬼ごつてをしてゐる男の子、人形と話をしてゐる女の子、どれも上へだけのまねではなくて、全くその氣になりきつてゐます。子供の遊びを、たはむれやふざけ半分でやるやうに軽く考へるのは、全くの誤りであることに氣づくでせう。さうして遊びが、子供にとつて大切な意義のあることや、その遊ばせ方は、この心持を離れてはならないこともわかるでせう。

遊びのいろ／＼ その一つは、音や形や色などの感覺のはたらきを中心とする遊びで、これは乳兒の頃から二年前後まで続きます。又、手足の運動を楽しむ遊びも、乳兒の頃から續いてゐます。初めはごく簡単な運動ですが、だん／＼におもちゃを使つて、複雑な運

動をするやうになります。このやうな遊びが、幼兒の感覺や運動力を發達させて行くのです。

おもちゃはなるべく丈夫なものを選んで持たせるやうにする必要があります。これはやすいおもちゃは、物を粗末に取り扱ふやうな習慣にちいらせやすく、堅實な氣風を養はせることができます。

二年頃から、幼兒期の最も活潑な遊びとして現れるものは、周囲のいろ／＼な生活を見てまねをするまゝ、ごつてを始め、ごつて遊びなどです。これらは本氣であり、その間に自然や社會の種々のものに興味をもち、又それを學び取つて行くのですから、よくみちびくことが大切です。

これと大體同じ頃から、物を組み立てて遊ぶことを好むやうになります。積み木はその頃の最も喜ばれるおもちゃで、さまざまの物を材料にして、形を組み立てて行く間に、工夫や創造のはたらきが發達し、根氣も養はれて來るのです。一般に、幼兒は指先が器用でありませんが、おもちゃがあまり輕過ぎたり重過ぎたりすると、十分にこれを使ひこなすことができませ

ん。随つて、積み木のやうなものは、特に大きな・重さ・形など、幼児の取扱ひに適當なものを選ぶやうに心掛けなければなりません。

ごつこ遊びでも、組立て遊びでも、自分でいろ／＼なものをおもちゃに使つてゐることが目につくでせう。感覚や運動力を發達させるために、適當に作られたおもちゃもいろいろありますが、又、工夫力をはたらかせて行くやうなものも必要です。これらは賣つてゐるものばかりでなく、私どもにもできますから、作つてやるやうにしませう。唯、幼児の中には、自分獨りでは、さういふ興味を十分にもつことのできない者もありますから、相手をし、よくみちびいて行くやうにしなければなりません。しかし、あまり世話をやくと、却つて依頼心を起しますから、注意する必要があります。

(一)草や葉や木の實などの自然物でもちやを作つてごらんなさい。

(二)この時、衛生上どんなことに注意しなければならせんか。

する必要がありますが、この時、交通をさまたげないやうに、しつぱに注意しなければなりません。

子供たちの健康は、將卒のわが國力に大きな關係のあることを常に忘れてはなりません。

(一)日光と運動とは、なぜ健康に必要ですか。

(二)幼児はどんな遊びをしていますか。屋内・戸外、男女の別に就いて調べてごらんなさい。

(三)繪本を選ぶにはどんな點に注意したらよいでせうか。

第四 家の清潔と整理

一 掃除用具と掃除の仕方

清潔を好むのはわが國民性の特色であり、勤勞にいとむのは、わが國の女子の美德であります。

手傳ひにはいろ／＼ありますが、中でも掃除は、子どもの手傳ひとしては最も手近で、家を愛する者には當然のことです。いそがしい家人の手を助けて、自分

屋内の遊び 子供は活潑に遊ぶ一方、繪本を見たり話を聞いたりすることも好きです。繪本は獨りで見させておいてもよいが、そばで一しよに見ながら讀んでやつたり、繪を言葉にして話してやつたりすると一層喜びます。殊に、無邪氣なよい話を聞かせることは、子供を喜ばせるばかりでなく、その心を養ひ育てることにもなります。このためには、よい繪本を選んで與へ、よい話を覚えて、雨の日やそのほか戸外に出られない時などには、弟妹をみちびき喜ばせるやさしい姉になりたいたいものです。

戸外の遊び 子供にとつて最も大切なのは、戸外の遊びであります。日光と新鮮な空氣とは、健康になくはならないものであつて、戸外の遊びでは、それが存分に與へられます。戸外の遊びは、唯、子供の健康のためばかりでなく、明かるく朗かな性格を作り、強くたくましい心身を鍛へるためにも極めて大切です。廣い野原のある農村の子供や、明かるい砂濱をもつ漁村の子供などは、この點で非常に恵まれてゐます。都會の子供にも、できるだけ戸外の遊びをさせるやうに

のちよつとした勢力で家の生活の一部に盡くせるのは、この上もなくうれしいことではありませんか。

一家の掃除に就いて、めい／＼の受持はどうなつてゐますか。

部屋の掃除 掃除の仕方にその人の性質が現れるといはれます。よく手順を考へ、常に細かく注意して掃除をしませう。

先づ、はたきをかける時は、障子や窓を十分にあげて、普通、部屋の上の方から下の方へ進めるやうにし、塗り物や額や置物などには、特に氣をつけてかけます。壁を掃くには、よく箒の先の動きを考へ、壁の目に合はせて箒の平な面で掃いたり、時には箒の先を縦に使つたりします。さうして、風の向きに注意して、なるべくごみを飛び散らさないやうに掃き集め、ちり取りに取ります。

掃除の時、机や椅子などを引きずつたりすると、壁の表をいためますから、注意しなければなりません。

特別にほこりの多い時には、どんな方法で掃いた

らよいでせうか。

はたきと箒とだけでは、小さなほこりまでは十分に取れません。又しみやよごれを取ることもできませんから、雑巾ぞうきんを使ひます。雑巾は乾いたまゝ使ふ場合と、ぬらして使ふ時とがあります。それ／＼どんな場合でせうか。ぬれ雑巾を使ふ時には、バケツの水をたびたび取りかへるやうにします。

掃除をするには、各の部屋でその用意や手順や方法などを、初めによく考へておかなければなりません。時間の關係などで急いである場合でも、その部屋の正しい掃除の手順がきまつてゐれば、要領よく簡単にできるものです。

(一)めい／＼の家の部屋に就いて、それ／＼掃除の手順・方法などを研究してごらん下さい。

(二)掃除の時に出たほこりや屑物くずものを始末するには、どんな注意がいりますか。衛生・廢物利用・廢品回収の點からも考へてごらん下さい。

から掃き、植木などにも水をやりませう。

庭には落ち葉や紙屑などが散らばりやすいものですから、一日に一度は掃除をさせよう。その時、軒端や木の枝の蜘蛛の巣を取り、枯れ葉なども拂ひ落して掃き集め、先に述べたやうな注意で始末をします。

掃除は自分の家だけでなく、附近の道路やみどなどもきれいにするやうに心掛けさせよう。

掃除した後では、使つた道具を必ず片づける習慣をつけることが肝要です。しまひ忘れると、後で捜すのに手間取つたり、雨や霜に當つていたんだりするばかりでなく、夜などそれにつまづいて、けがをすることもあります。

めい／＼の机や本箱のあたりを整理しなさい。

二 物品の整理

掃除は家をきれいにすると同時に、私どもの心持をもさつぱりさせます。又、物品も大切に整理しておけば、生活を便利にし、物を永もちさせるばかりでなく、

疊の目にはいつたほこりは、箒で掃くだけでは取りにくいものですから、目の方向に沿つて刷毛をかけ、ぬれ雑巾で拭き取ります。

疊全體が何となくよごれて見える時は、晴れた日に、湯で固くしぼつた雑巾で目の方向に拭き、二度目に仕上げ拭きをする、きれいになります。梅雨時などに、疊が濕つてべた／＼する時に、少し熱めの湯で固くしぼつた雑巾で拭き、そのあとを乾いた雑巾で仕上げ拭きをしておきます。

春秋の大掃除には、疊の裏を十分に日光と風に當ててから、裏表ともよくたいて、ほこりを出すことが大切です。

清潔の一番の秘訣は、できるだけちりや屑を出さないやうに氣をつけ、それが出たら、直ぐに手近のちり箱や屑かごに入れること、つまり、いつも掃除をしてゐる氣持で、部屋をきれいにしておくことです。

庭や家の周囲の掃除 春から夏にかけては雑草が茂りますから、これはいつも小さいうちに抜き取つておくやうにします。土が乾いてゐる時には、水をまいて

私どもの心にゆとりを與へます。自分の身のまはりだけでなく、家中の整理が出来てゐると、家内中の心も整へられます。かうしたところに、女子の務めの精神的な意義があるのです。

次に、整理の仕方を工夫してみませう。

一 使用目的による整理 文房具・裁縫用具・被服類・寝具・食器・調理用具・掃除用具・園藝用具・履物など、それ／＼使用目的にかなふやうに、きまつた場所や容器に納めて、いつも整理しておきませう。

家内中の履物を種類によつて整理してごらん下さい。

二 形と大きさによる整理 使用目的は大體似てゐても、大きさや形の違ふものを一つの引出しや箱の中に入れると、都合のわるいことが起ります。それ故、物品の大體の形と大きさを考へて、場所にひだがなく、取り扱いやすいやうに、引出しや棚を適當な大きさに仕切つて整理しておく、と便利です。

(一)下駄箱はどれくらゐに仕切れば都合がよいでせ

うか。

(二) たんすの引出しの大きさはどれくらいになつてゐるかを測り、その大きさを不便やむだがないかを考へてごらんなさい。

三 使ふ人の身長や使ふ時の姿勢による整理

(一) 大人のものと子供のものとは、各、どんな場所に整理しておいたらよいでせうか。

(二) 坐つて使ふものと立つて使ふものでは、それを納める場所にそれ／＼どんな工夫がいりますか。

あまり高い所や低い所は、唯、物品を保存しておくだけならさしつかへありませんが、出し入れには不便です。手が届きやすく、中のものがよく見える高さが最もよいのです。又たび／＼使ふものは、使ふ人の肩の高さから膝の高さまでの間にあるのが便利です。

押入れの棚は、どう仕切れば整理に便利かを研究してごらんなさい。

四 使用の程度による整理 毎日たび／＼使ふもの、時々使ふもの、或る期間だけでもたび／＼使ふものは、第三の方法で整理し、そのほかは使用の程度によつて、肩よりも上、膝よりも下の位置に、又は少し離れた押入れや納戸・物置などに整理しておきます。

この場合にも第一・第二の方法でむだなくまとめておくやうにします。

夏と冬だけに使ふものには、それ／＼どんなものがありますか。

三 家具や什器などの手入れ

物品をできるだけ永もちさせるには、その性質に随つて、それ／＼注意して扱はなければなりません。

使つてゐる間に弱つたり、傷がついたりしたら、直ぐに捨ててしまはないで、何度でもよく手入れをして、できるだけ長く使ふやうにしなければなりません。

中等家事

文部省

〔後〕 ¥.80

(102)

1.2445
2
1.7A